

心臓カテーテル治療の先駆者・鈴木孝彦医師(55)

二〇〇三年が本格始動しました。町には活気が戻り、子どもたちの学校も始まります。「ことしは「ことしは「ことしこそ」。それぞれの誓いや抱負があるでしょう。そんな中で新しい年に「輝く人」に会いました。



広げるため、風船のついた管を通し膨らませるカテーテル治療法をドイツ人医師が発表したのは、二十年以上前。国立療養所豊橋東病院にいた鈴木孝彦医師(55)は当時、この治療法に「画期的だった。だが、こんな乱暴なことをやっていたのかとも思った」と半信半疑だった。国内での実施例は少なく、手探りで始めた治療だったが、リスクの高い手術をしなくても済むように



治療にあたる鈴木院長(左)＝豊橋ハートセンターバンフレットから

ら訪ねて来る。一方で、鈴木医師はカテーテル治療の草分け的存在として、技術指導にも力を注ぐ。昨年十一月に米国のスタンフォード大学で開いた講演会には、約百人の医師らが集まり、熱心に耳を傾けた。

新技術挑戦し続けたい

胸の締めつけられるような痛み、圧迫感や息切れないなどを症状とする狭心症や心筋梗塞(こうそく)にかか

る人が、増えている。心臓の血管が細くなったり、詰まったりし、酸素や栄養分が行き渡らなくなる病気で、飲酒や喫煙、脂肪分の

多い食生活なども影響しているという。

なった。患者は「良くなった」と喜んだ。現在では特殊な治療法ではなくなった。一九九九(平成十一年)に、心臓病専門病院「豊橋ハートセンター」(大分県)を開設した鈴木医師は、今では、心臓の血管に管を通して行つあらゆる力

「新しい技術を取り入れ続け、心臓病治療の『目』ではない。」

患者は全国か

治療に要する時間は三十分から一時間程度。ハート

「荒技」まである。

(大杉はるか)

